

“Cheer Up Your Quality”

品質を通じて社会に価値を創造する会社

大王電機 株式会社

「計測器の校正サービス」、「計測システム開発」、そしてLSI(大規模集積回路)メーカー向けに開発から量産までのテスト全般を支援する「LSIテストソリューション」を手がける大王電機株式会社。

“Cheer Up Your Quality”～『品質』を通じて社会に価値を創造する～を経営ビジョンに掲げ、3つの事業を通じ2,000社を超える顧客の品質を支えています。今回は代表取締役社長の近藤輝様にお話を伺いました。

一事業の拡大、そして迫られた

選択と集中

当社は「計測器の校正サービス」、LSIメーカー向けに開発から量産までのテスト全般を支援する「LSIテストソリューション」、そしてカスタム試験機や装置を開発する「計測システム開発」の3つの事業を手がけています。一見つながりの薄いように見えるこの3つの事業のなりたちを紐解くために、まずは当社の歴史を説明します。

当社は1972年2月に当時の三菱電機(株)通信機製作所から通信機用トランス製造事業を移管される形で創業しました。その後、技術力を評価いただけたこともあり、徐々にトランス製造以外の依頼も増えはじめ、1976年には現在の主力事業である計測器の校正業務を同社向けに開始しました。そして、計測器の管理・校正が要求されるISO9001の普及を追い風に、同社以外に向けてサービスを始めたのが、3事業のうちの1つ、計測器校正サービス事業です。

さらに1978年には同じく三菱電機向けに、同社からの要望を受け入れる形でLSI回路設計事業を開始します。まったく新しい分野ではあるものの、これは私の祖父であり、創業者である近藤敬吉が、もともと半導体関連の技術者であったことによる部分が大きかったようです。その後も半導体製造

工場向け自動化装置の開発を手がけるなど、半導体関連業務の幅を広げていきました。そうした中で、デザインハウス(半導体の全体または一部分の設計を受託する業態)としての業務に加え、設計した半導体のテスト・評価も手がけるようになり、これが現在の2つ目の主力事業、LSIテストソリューション事業につながっていきます。

そして3つ目が、計測システム開発事業です。1982年にメカトロニクス事業として立ちあげ、三菱電機向けを中心に当初は搬送装置などを手掛けてきましたが、社内のLSIエンジニアの参画により試験機をラインナップに加え、現在に至ります。メカ設計・制御設計・電気設計・ソフトウェア設計・工作と、当社の技術力を結集してお客様の課題解決に取り組んでいるのが、この計測システム開発事業です。

順調であったこれら事業が大きな転機を迎えることになったきっかけが2008年のリーマンショックでした。需要の急減に伴い2010年に祖業のトランス事業を、2011年にLSIの回路設計事業を終了し、現在の3つの事業に集約する形となりました。

一コロナ禍でも営業活動を活発化

3つの事業の売上比率は、おおむね計測器校正サービス事業が4割、LSIテストソリューション事業が3割、計



大王電機 株式会社

代表取締役社長：近藤 輝 氏

本 社：兵庫県伊丹市北伊丹9丁目80番地1

設 立：1972年(昭和47年)

社 員 数：107名

事業内容：計測システム開発事業

計測器校正サービス事業

LSIテストソリューション事業

URL：<https://www.daioh-denki.co.jp/>



本社社屋

構想期間1年間！とっておきの1枚を集めた50周年記念アルバム



昨年2月に、50周年を記念して作成したアルバム。全社員が自由な服装やポーズでフィルムに収まりました。応援する球団のユニフォームを着たり趣味のカメラやギターを持つなど、それぞれの個性があふれ出る写真は、撮影のみならずヘアメイクもプロに依頼。写真下には Instagram のように # (ハッシュタグ) をつけて思い思いのコメントを残しています。マスク生活が続く中、社員全員の表情が見える、粋な企画だと感じました。

測システム開発事業が3割です。なかでも計測器校正サービス事業は毎年5%ほどの成長を続けています。リピーターとなってくださるお客様からの信頼獲得を継続するとともに、WEB や BtoB データベースサイト活動などで新規のお客様との取引を増やしました。ベテランを中心とした当社の技術力に加え、お客様目線による臨機応変な対応を含めた当社の総合的な品質を評価いただけていると感じています。

また、自社製品である異音検査装置の拡販にも力を入れています。異音検査や振動検査は、熟練者の聴感や触感による検査も多いですが、当社の異音検査装置ではマハラノビスタグチ法を活用した独自の検査アルゴリズムにより、音や振動の良否を定量的に自動で検査できます。モーター音や機械の動作音、回転物の異常振動などに加え、音声案内の機能を搭載した家電製品の検査にも活用いただいています。今後もより多くのお客様からお声掛けいただけるよう努めていきます。



異音検査装置

一課題に向き合い進める人材育成

そんな当社が一番の強みは「人」だと考えています。50年の歴史を裏打ちするような高い技術力を持つ社員が多数在籍しており、たとえば校正事業では、多様な種類の計測器を、多い日には1日100～200台校正することもあります。どの設備で校正するかなど重要なノウハウも多いため、ベテランの多さは大きな強みですが、長い目で見れば弱みでもあります。リーマンショック後に人員を絞ったことも影響し、ベテランと若手をつなぐ中堅の社員が少なく、そういった中での技術伝承が目下の課題です。

そのためベテランには、指導力・育成力の向上に積極的に取り組んでもらっています。各部門の事業計画をはじめ、人事評価や個人の目標管理にも「育成」の項目を盛り込むなど、人材育成を全社的な最重要事項と位置づけています。

いっぽうで中堅社員に対しては、社内研修を中心に総合的な教育を行っています。当社は部門ごとに事業内容がまったく異なるため異動がほぼありません。会社の歴史や経営者の考えのほか、売上、利益、品質管理に対する取り組み、それぞれの部門の強みなどを研修という形で学ぶことで、会社全体を理解できる人材の育成に取り組んでいます。

また、新卒採用に関しては、大学と連携したインターンシップを行うなど積極的なアプローチを取っています。ここでは LSI テストソリューション事業が呼び水の役割を果たしており、関西には少ない半導体産業を垣間見れる場として、当社に関心を持っていただくことにつながっています。

一品質を通じて社会に価値を創造する

経営者としては、取り組むべき課題のひとつに当社の認知度の向上があると考えています。当社の技術を用いれば解決できる問題を抱えた企業が「どこに相談すればいいのかわからない」と悩むことのないよう、ひとりでも多くの品質で困っているお客様のお役にたてる会社になりたいと思っています。特に、国内にも工場が新設されつつある半導体や新型電池といった分野に注目しています。

当社の全ての事業に共通するのは『品質』の重要性です。“Cheer Up Your Quality”～品質を通じて社会に価値を創造する～と定めた経営ビジョンをより一層浸透させ、従業員一人ひとりが、品質を切り口に、最適なソリューションをお客様に提案できるよう、これからも注力していきます。

一貴重なお話をいただき、ありがとうございました。